

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(60歳代男性)あり、本年の累積報告数は30例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- デング熱の報告が1例(20歳代女性)ありました。感染地域は国外(タイ)で、感染経路は蚊媒介です。本年の累積報告数は3例となりました。
- 梅毒の報告が1例(40歳代男性)ありました。感染地域は国内、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は42例となりました。
京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を匿名で実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。
○京都市情報館「京都市のHIV検査について」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>
- 百日咳の報告が2例(10歳未満男性1例、10歳代女性1例)ありました。いずれも感染地域は国内です。本年の累積報告数は74例となりました。
- 手足口病の定点当たり報告数は前週7.00(301例)から5.07(218例)と減少しましたが、第24週からの警報は継続中です。こまめな手洗い、タオルを共有しないなど予防に努めましょう。

◆ 今週のトピックス: <風しん>

風しんの本年の累積報告数は第30週までで、京都市で11例、全国では2,039例となり、平成24年から25年にかけての流行以来の増加となった昨年に引き続き、報告数の多い状況となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類: 結核 4例(肺結核 1例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 177例(肺結核 74例, その他結核46例, 潜在性結核感染者 57例)うち喀痰塗抹陽性 37例】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 30例】
- 四類: デング熱 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 42例】
- 五類: 百日咳 2例【1月以降の累積報告数 74例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0. 12	8
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	5. 07	218
	② 感染性胃腸炎	2. 88	124
	③ 伝染性紅斑	1. 65	71
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1. 09	47
	⑤ ヘルパンギーナ	1. 07	46
眼科	流行性角結膜炎	0. 60	6

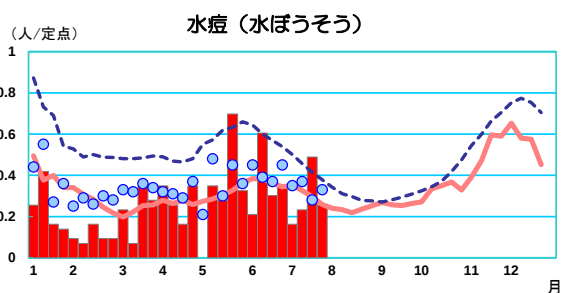
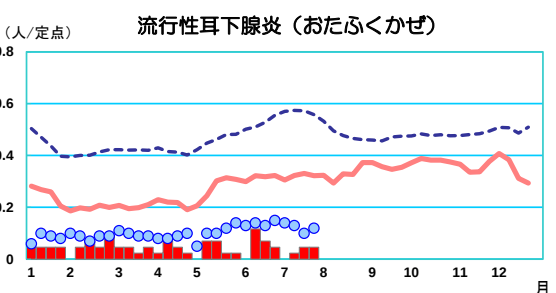
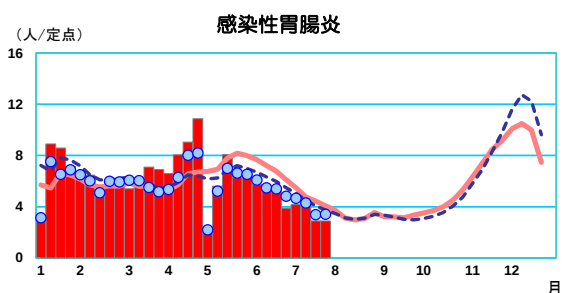
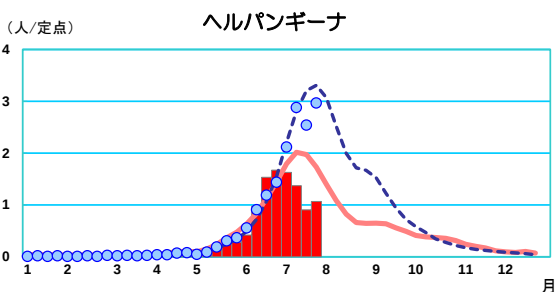
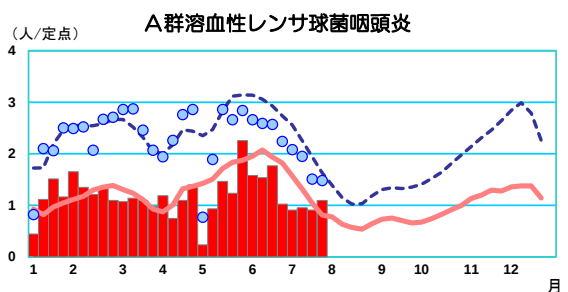
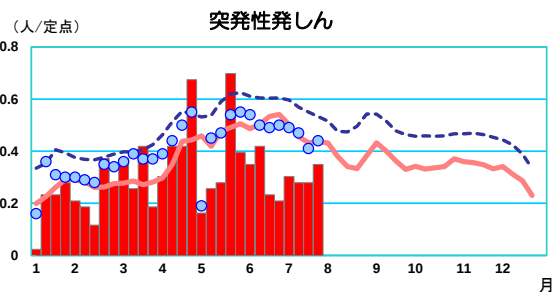
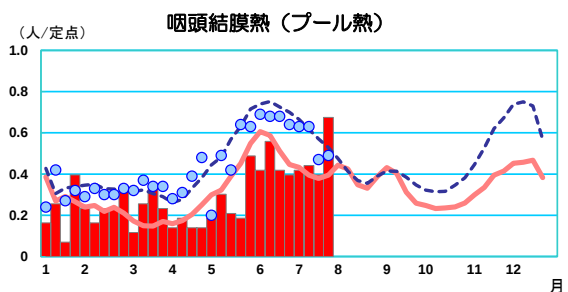
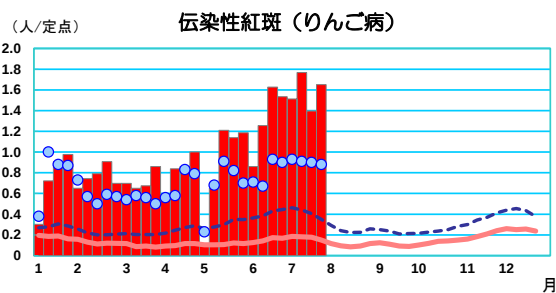
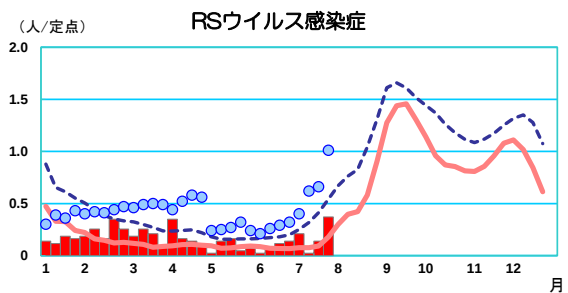
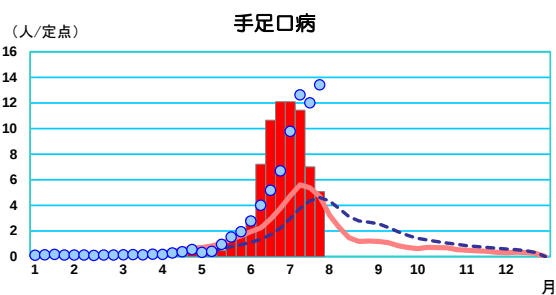
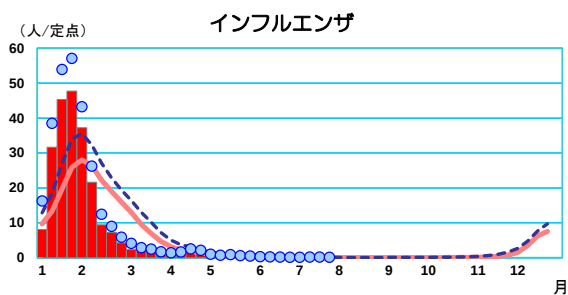
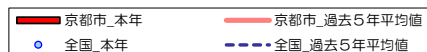
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <風しん>

付表(疾病、行政区別報告数 / 年齢階級、疾病別報告数 / 週、疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2019年7月31日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第30週(7月22日～7月28日)トピックス: <風しん>

風しんの本年の累積報告数は第30週までで、京都市で11例、全国では2,039例となり、平成24年から25年にかけての流行以来の増加となった昨年に引き続き、報告数の多い状況となっています(表1)。

風しんは子どもの感染症というイメージがありますが、全国では報告された患者の95%が成人となっています。また性別では、男性が女性の約4倍で、特に40歳代で男性の比率が非常に高くなっています(図1)。

風しんは、感染力の強い風しんウイルスが飛沫(唾液のしぶき)などによって他の人に感染し、発熱・発疹などの症状を引き起こします。とくに妊娠初期の妊婦さんが感染すると、胎内の赤ちゃんにも感染し、耳が聞こえにくい、目が見えにくい、生まれつき心臓に病気がある、発達がゆっくりしているなど「先天性風しん症候群」という重い病気にかかってしまうリスクがあります。予防にはワクチン接種しかありません。

国立感染症研究所が発表している、「年代別で見る風しんの予防接種制度の変遷」(図2)によると、昭和37年(1962年)4月2日～昭和54年(1979年)4月1日生まれの男性は制度上、定期接種の機会がなかったため、抗体を持っている人は約80%と他の年代よりも低くなっています。これが40歳代の男性の患者報告数の比率が高くなっていることにつながっています。この年代よりも前に生まれている人は、ワクチンの接種はしていませんが、風しんが頻繁に流行していたため、自然罹患によって抗体を持っていることが多く、報告数が少なくなっています。20歳代から30歳代にも報告数が多いのはワクチン接種が1回であったため、年月を経て抗体価が低くなってしまっていることが考えられます。

そこで京都市では、一度もワクチン接種する機会がなく、抗体保有率の低い、上記期間に生まれた男性に対し、2022年3月31日まで、風しんの抗体検査と、風しんの第5期定期予防接種を原則無料で実施しています。8月1日からは、受診した窓口での負担が無料となるクーポン券の送付を開始しました。今回は対象者のうち昭和47年(1972年)4月2日から昭和54年(1979年)4月1日生まれの方(約71,000人)に送付し、それ以外の対象者には追って発表、送付することになっています。対象の方は、自分のためにも、周りの人のためにも積極的に抗体検査を受けてください。

市民のお問い合わせに対応するため、風しん第5期定期予防接種専用コールセンターを開設しています。

○専用コールセンター 0120-074-888 (令和2年3月31日まで)

詳しい情報を京都市のホームページでも案内しています。下記URLをご参照ください。

○<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000248959.html> (風しんの追加的対策(抗体検査・定期予防接種)について)

また京都市では妊娠を希望する女性等を対象とした、風しん抗体検査の助成・風しん任意予防接種の一部公費負担も継続して行っています。下記URLをご参照ください。

○<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000163145.html>

表1 京都市及び全国の報告数の推移(平成24年～令和元年第30週まで)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年 第30週まで
京都市 (人)	26	210	1	1	0	0	14	11
全国 (人)	2,386	14,344	319	163	126	91	2,937	2,039

図1 全国の性別、年齢階級別の報告数(本年第30週まで)

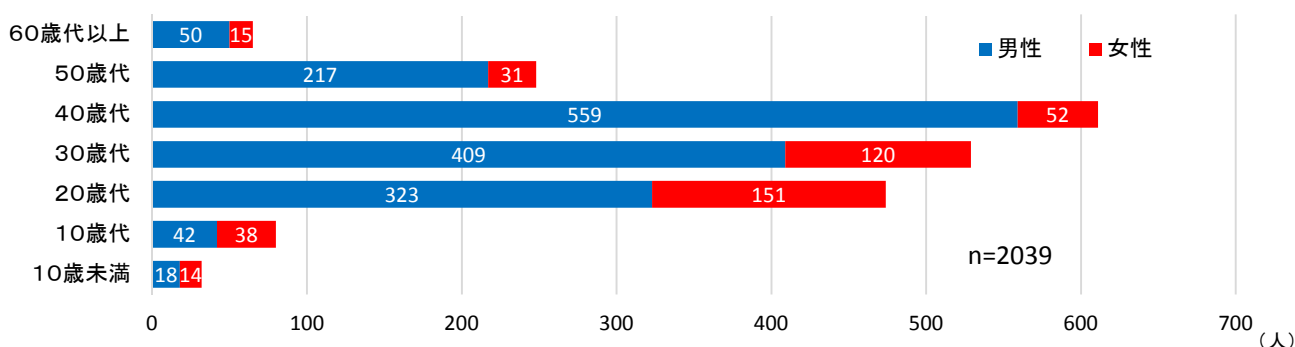
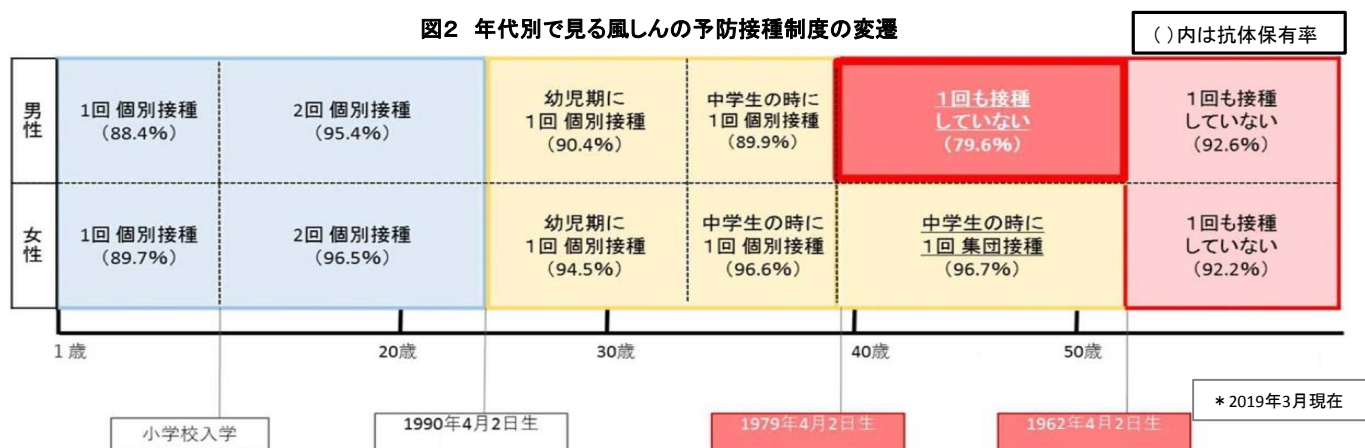


図2 年代別で見る風しんの予防接種制度の変遷



【出典】国立感染症研究所「年齢・年齢群別の風疹抗体保有状況」2013-2017年をもとに算出(10歳以下のみ2017年のデータで計算)

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第30週

疾病,行政区別報告数

2019年7月22日～2019年7月28日

データ入手日:2019年7月31日

	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	1	2	2	-	-	1	6	3	-	1	-	-	-					
上京	-	1	1	4	4	1	14	7	-	2	-	-	-					
左京	3	-	3	3	13	2	47	12	5	9	-	-	-					
中京	4	1	-	2	4	-	15	5	-	5	-	-	1	-	-	-	-	-
東山	-	1	-	-	15	-	2	-	-	2	-							
山科	-	1	4	4	2	-	28	5	1	3	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-							
南	-	-	1	-	10	-	17	9	3	14	-							
右京	-	5	8	18	20	1	22	9	2	3	-	-	2					
伏見	-	4	8	16	42	4	51	21	3	6	1	-	3					
西京	-	1	2	-	14	2	16	-	-	1	1	-	-					
京都市計	8	16	29	47	124	11	218	71	15	46	2	-	6	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	0.14	0.50	0.50	-	-	0.25	1.50	0.75	-	0.25	-	-	-					
上京	-	0.33	0.33	1.33	1.33	0.33	4.67	2.33	-	0.67	-	-	-					
左京	0.43	-	0.75	0.75	3.25	0.50	11.75	3.00	1.25	2.25	-	-	-					
中京	0.80	0.33	-	0.67	1.33	-	5.00	1.67	-	1.67	-	-	0.50	-	-	-	-	-
東山	-	0.50	-	-	7.50	-	1.00	-	-	1.00	-							
山科	-	0.20	0.80	0.80	0.40	-	5.60	1.00	0.20	0.60	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	0.50	-	-							
南	-	-	0.33	-	3.33	-	5.67	3.00	1.00	4.67	-							
右京	-	1.00	1.60	3.60	4.00	0.20	4.40	1.80	0.40	0.60	-	-	2.00					
伏見	-	0.57	1.14	2.29	6.00	0.57	7.29	3.00	0.43	0.86	0.14	-	1.50					
西京	-	0.20	0.40	-	2.80	0.40	3.20	-	-	0.20	0.20	-	-					
京都市計	0.12	0.37	0.67	1.09	2.88	0.26	5.07	1.65	0.35	1.07	0.05	-	0.60	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第30週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年7月22日～2019年7月28日

データ入手日:2019年7月31日

京都市 男女合計	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	4	-	1	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	16	4	2	4	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		29	-	3	5	5	6	4	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		47	1	1	3	3	7	5	3	11	6	2	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		124	1	11	15	11	8	16	10	12	7	11	3	10	2	7	-	-	-	-	-	-
水痘		11	-	1	1	-	1	1	1	2	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		218	1	32	65	46	29	16	7	5	3	2	2	4	1	5	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		71	-	-	4	6	14	11	11	10	5	7	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		15	-	2	8	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		46	1	7	13	14	3	4	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	6	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市 男女合計	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	0.12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.03	0.01	0.06	-	0.01	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.37	0.09	0.05	0.09	0.12	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.67	-	0.07	0.12	0.12	0.14	0.09	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.09	0.02	0.02	0.07	0.07	0.16	0.12	0.07	0.26	0.14	0.05	-	0.02	-	0.09	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		2.88	0.02	0.26	0.35	0.26	0.19	0.37	0.23	0.28	0.16	0.26	0.07	0.23	0.05	0.16	-	-	-	-	-	-
水痘		0.26	-	0.02	0.02	-	0.02	0.02	0.02	0.05	0.05	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		5.07	0.02	0.74	1.51	1.07	0.67	0.37	0.16	0.12	0.07	0.05	0.05	0.09	0.02	0.12	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		1.65	-	-	0.09	0.14	0.33	0.26	0.26	0.23	0.12	0.16	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.35	-	0.05	0.19	0.07	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		1.07	0.02	0.16	0.30	0.33	0.07	0.09	0.02	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	0.60	-	-	-	-	0.10	-	0.10	-	-	-	-	-	0.10	0.10	0.10	0.10	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第30週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年7月31日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	10	8	6	3	6	8
RSウイルス感染症	5	6	9	1	6	16
咽頭結膜熱	18	17	18	19	17	29
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	76	44	39	41	39	47
感染性胃腸炎	233	167	179	182	124	124
水痘	13	15	7	10	21	11
手足口病	458	520	520	492	301	218
伝染性紅斑	70	66	65	76	60	71
突発性発しん	10	9	13	12	12	15
ヘルパンギーナ	66	72	70	59	39	46
流行性耳下腺炎	3	2	-	1	2	2
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	1	3	6	-	6
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	972	927	929	902	627	593

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.14	0.12	0.09	0.04	0.09	0.12
RSウイルス感染症	0.12	0.14	0.21	0.02	0.14	0.37
咽頭結膜熱	0.42	0.40	0.42	0.44	0.40	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.77	1.02	0.91	0.95	0.91	1.09
感染性胃腸炎	5.42	3.88	4.16	4.23	2.88	2.88
水痘	0.30	0.35	0.16	0.23	0.49	0.26
手足口病	10.65	12.09	12.09	11.44	7.00	5.07
伝染性紅斑	1.63	1.53	1.51	1.77	1.40	1.65
突発性発しん	0.23	0.21	0.30	0.28	0.28	0.35
ヘルパンギーナ	1.53	1.67	1.63	1.37	0.91	1.07
流行性耳下腺炎	0.07	0.05	-	0.02	0.05	0.05
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.80	0.10	0.30	0.60	-	0.60
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2.00	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	25.08	21.56	21.78	21.41	14.53	14.18

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。